

授業科目名	ピアノ・声楽 I	教員名	土田悦子・本田奈留美 栗原美妃・浜月春佳 南園加奈子・高橋秀代 高橋千恵美・明石芙美代 佐々木由喜子	卒業及び 免許・資格 との関係	卒業	必修
					小学校教諭	必修
科目番号	KY0204	配当年次	2年前期		幼稚園教諭	必修
授業形態	演習				保育士	必修
単位数	1単位				こども音楽療育士	必修
科目					情報処理士	
施行規則に定める科目区分						
一般目標	小学校教諭及び保育者に必要とされるピアノ・声楽の基礎的な演奏技術を修得する。					
到達目標	(1) ピアノの演奏に必要な基礎的な楽曲を能力に応じて習得する。 (2) 子どもの歌や小学校学の共通歌唱教材の歌唱とともに、伴奏や弾き歌いが、個人の能力に応じた伴奏形によって演奏できるようにする。 (3) 必要な音楽理論について理解し、読譜や表現に活かすことができる。 (4) レッスンを通して、教師の音楽性に学びながら、音楽を愛好する心情や音楽に対する豊かな感性を養う。					
ディプロマ・ポリシーとの関係	本演習は、教育学部のディプロマ・ポリシーに掲げる「7. 基礎的な音楽力を身につけている。」を育成する科目として配置している。					
授業の概要	本授業では、ピアノ・声楽の演奏技術の基礎を学ぶとともに、必要な音楽理論の知識を深める。さらに、保育現場や小学校現場における音楽を使った活動に必要な演奏の技術を習得する。具体的には、1コマ90分のグループレッスンを通して、基礎的なピアノの演奏技術を習得し、個々の能力に応じた伴奏形で、幼児の歌や小学校共通歌唱教材等の弾き歌いができるようにする。相互に演奏を聴き合い教えあうアクティブラーニングを通して、理解を深め演奏技術を磨く。					
履修条件・注意事項	本授業は、卒業及び資格必修科目となっているだけでなく、教員や保育者にとって、最低限の音楽的素養を獲得するために必要な科目である。特に、練習環境の無い学生は、学校の備品を利用して個人練習をしたうえで受講すること。					
授業計画	<p>第1回：学生は、教材、授業方法（個人指導及びグループレッスン）、評価方法等について理解する。担当者は、学生のこれまでの音楽経験について取材し今学期の方針を立て練習方法を教授する。（目標(1)）</p> <p>第2回：個人レッスン及びグループレッスン ピアノテクニック〈基礎編〉、子どもの歌、共通歌唱教材について、個人の能力に応じた今期の到達目標を把握させ、レッスンする。（目標(1), (2), (3)）</p> <p>第3回：個人レッスン及びグループレッスン ピアノテクニック〈基礎編〉、子どもの歌、共通歌唱教材について、個人の能力に応じた練習曲をレッスンし、グループで音楽用語や理論を共通理解する。（目標(1), (2), (3)）</p> <p>第4回：個人レッスン及びグループレッスン ピアノテクニック〈基礎編〉、子どもの歌、共通歌唱教材について、個人の能力に応じた練習曲をレッスンし、グループで音楽用語や理論について正しく理解し演奏に反映させる。（目標(1), (2), (3)）</p> <p>第5回：個人レッスン及びグループレッスン 子どもの歌、共通歌唱教材は、各自の能力に応じて選曲し、伴奏や弾き歌いについて表現能力を高める。グループレッスンで、お互いに聴き合い教えあう。（目標(2), (3), (4)）</p> <p>第6回：個人レッスン及びグループレッスン 子どもの歌、共通歌唱教材は、各自の能力に応じて選曲し、伴奏や弾き歌いについて表現能力を高める。グループレッスンで、お互いに聴き合い教えあう。（目標(2), (3), (4)）</p> <p>第7回：個人レッスン及びグループレッスン 中間実技試験に向け、各自の能力に応じて選曲した子どもの歌、小学校共通歌唱教材の伴奏や弾き歌いができるようにする。（目標(2), (3), (4)）</p> <p>第8回：中間実技試験 各自の能力に応じて選曲した子どもの歌、小学校共通歌唱教材の弾き歌いを実施し、グループで鑑賞しながら学びあう。担当講師全員で評価する。（目標(2), (3), (4)）</p> <p>第9回：個人レッスン及びグループレッスン 子どもの歌、共通歌唱教材は、各自の能力に応じて選曲し、伴奏や弾き歌いについて表現能力を高める。グループでお互いに聴き合いながら、演奏、表現能力の定着を図る。（目標(2), (3), (4)）</p> <p>第10回：個人レッスン及びグループレッスン</p>					

	<p>子どもの歌、共通歌唱教材は、各自の能力に応じて選曲し、伴奏や弾き歌いについて表現能力を高める。お互いに聴き合いながら、演奏、表現能力の定着を図る。(目標(2),(3),(4))</p> <p>第11回：個人レッスン及びグループレッスン 子どもの歌、共通歌唱教材は、各自の能力に応じて選曲し、伴奏や弾き歌いについて表現能力を高める。グループでお互いに聴き合いながら、演奏、表現能力の定着を図る。(目標(2),(3),(4))</p> <p>第12回：個人レッスン及びグループレッスン 子どもの歌、共通歌唱教材は、各自の能力に応じて選曲し、伴奏や弾き歌いについて表現能力を高める。グループでお互いに聴き合いながら、演奏、表現能力の定着を図る。(目標(2),(3),(4))</p> <p>第13回：個人レッスン及びグループレッスン 子どもの歌、共通歌唱教材は、各自の能力に応じて選曲し、伴奏や弾き歌いについて表現能力を高める。グループでお互いに聴き合いながら、演奏、表現能力の定着を図る。(目標(2),(3),(4))</p> <p>第14回：個人レッスン及びグループレッスン 子どもの歌、共通歌唱教材は、各自の能力に応じて選曲し、伴奏や弾き歌いについて表現能力を高める。グループでお互いに聴き合いながら、演奏、表現能力の定着を図る。(目標(2),(3),(4))</p> <p>第15回：個人レッスン及びグループレッスン 定期試験に向け、子どもの歌、共通歌唱教材は、各自の能力に応じて選曲し、伴奏や弾き歌いについて表現能力を高める。グループでお互いに聴き合い教えあう。(目標(2),(3),(4))</p> <p>定期試験：実技試験を試験期間中に実施 各自の能力に応じて選曲した子どもの歌、小学校共通歌唱教材の弾き歌いの発表を、グループで実施し、鑑賞しながら学びあう。担当講師全員で評価する。(目標(2),(3),(4))</p>
授業外学修時間の確保について	<p>(事前・事後学習として週4時間以上個人練習を行うこと。)</p> <p>事前学習：毎回、指導者より出された課題をしっかりと練習し、レッスンに備える。</p> <p>事後学習：講義内容について自分なりに整理し直し、次回授業までに何を練習するかを確認する。</p>
学生に対する評価	<p>日頃の練習内容：30% 実技試験：中間試験30%・期末試験40%</p> <p>なお、レポート等の提出物へのフィードバックについては、以下の方法等による。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コメントを記載して返却する。
テキスト	<p>①『こどもの歌ベストテン』（ドレミ楽譜出版社） ISBN978-4-285-14181-8</p> <p>②『改訂幼稚園教諭・保育士養成課程幼児のための音楽教育』（教育芸術社） ISBN978-4-87788-822-0</p> <p>③『新版 教員養成課程 小学校音楽科教育法』（教育芸術社） ISBN978-4-87788-823-7</p> <p>※③は小学校教員志望者のみ</p>
参考書・参考資料等	<p>『小学校学習指導要領（平成29年告示）』</p> <p>『幼稚園教育要領（平成29年告示）』</p> <p>『幼保連携型認定こども園教育・保育要領（平成29年告示）』</p> <p>『保育所保育指針（平成29年告示）』</p> <p>個人の能力に応じた楽曲</p>
担当者からのメッセージ	<p>自分のテキスト・レポートリーカード・練習レッスンの記録を毎時間忘れないように持参すること。</p>
オフィスアワー	<p>各担当ともに、授業の前後の時間・その他メール等でアポイントを取ること。</p>
備考	